

テクノロジーは介護の未来を変えることができるか

—介護分野におけるテクノロジーの活用と介護の質向上に向けた調査研究報告書— (所内研究プロジェクト)

所内研究プロジェクト体制

伊藤 彰久 (副所長)

遠坂 佳将 (主任研究員) 主担当 第1章から第3章

介護保険制度創設から20年以上が経過し、介護サービス市場の拡大とともに介護サービス従事者も増加してきたが、依然として、人手不足が想定される。同時に、後期高齢者比率の上昇により、要介護度の全体的な上昇が見込まれる中で、質の高い介護サービスを提供するための体制整備も重要な課題である。しかし、介護は比較的離職率の高い職種であるが、これは低い賃金水準のほかに、介護労働者の身体的・精神的負担が大きいことなどが背景にあるため、就業環境の改善が求められている。

このような状況下で、ICTやAIなどのテクノロジーの活用による「介護の質の維持・向上」、「生産性の向上」への取り組みは不可避であるが、介護の現場では、介護ロボット等のテクノロジーの導入は進んでいない。

このため、所内研究プロジェクトとして、統計データを収集し、日本で活用されている介護テクノロジーの体系的整理、介護事業所における介護テクノロジーの活用状況の実態把握と介護テクノロジーを導入している介護事業所において、職員の負担軽減やサービスの効率化を通じて、介護労働の生産性に及ぼす影響について、実証分析を行ってきた。

ヒアリング先

- 公益財団法人 テクノエイド協会 (2022年10月)
- 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 (2022年10月)
- 社会福祉法人 善光会 (2023年8月)
- 北九州市役所保健福祉局先進的介護システム推進室 (2023年8月)
- 社会福祉法人 青森社会福祉振興団 (2023年11月)

目次

まえがき

第1部 介護ロボットの導入に関する分析

第1章 介護ロボット導入に向けて：介護労働を取り巻く状況

第2章 介護ロボットの導入と関連する介護事業所の特性に関する分析

第3章 介護ロボット導入が介護労働に与える影響に関する分析

第2部 特別寄稿 超高齢社会と介護ロボットイノベーション—国家プロジェクト活動10年間の成果と今後の展望—

本田 幸夫 東京大学大学院工学系研究科人工物工学研究センター